

高度先進矯正学入門（不島健持）

Introduction to Highly Advanced Orthodontics (Kenji Fushima)

キーワード

- ① 高度先進口腔医学
- ② 歯科矯正学
- ③ 不正咬合
- ④ 顎発育
- ⑤ 口腔機能

授業概要

高度先進矯正臨床の入門として、下記の歯科矯正学の基礎知識に関する講義を行う。(1)歯科矯正概論。(2)顎顔面の解剖学。(3)顎顔面と歯列の成長発育、口腔機能の発達、永久歯の萌出誘導。(4)歯の移動時の歯周組織の生物学的応答。(5)矯正歯科材料学。(6)歯の移動のバイオメカニクス。(7)顎整形力のバイオメカニクス。(8)不正咬合の分類と病因論。(9)顎関節の解剖およびバイオメカニクス。(10)下顎運動の中枢制御機構。(11)先進矯正治療概論。

授業科目の学修目標

高度先進矯正臨床の入門として、歯科矯正学の基礎知識を修得する。

授業計画

- ① 歯科矯正学概論
 - ・ 不正咬合の分類と病因論 2コマ 不島健持
 - ・ 顎顔面と歯列の成長発育と口腔機能の発達 4コマ 不島健持
 - ・ 歯科矯正臨床と研究の倫理 4コマ 不島健持
- ② 歯科矯正基礎学
 - ・ 顎顔面の解剖学 4コマ 不島健持
 - ・ 下顎運動の中枢制御機構 4コマ 不島健持
 - ・ 矯正歯科材料学 2コマ 不島健持
- ③ 先進矯正治療学概論
 - ・ 歯の移動時の歯周組織のバイオメカニクス 6コマ 不島健持
 - ・ 顎整形力のバイオメカニクス 4コマ 不島健持

教科書および参考書

Biological Mechanism of Tooth Movement. Krishnan V and Ze'ev Davidovitch, ed, Wiley-Blackwell.
Orthodontics Current Principles and Techniques. Graber TM, Vanarsdall RL (3rd ed.), Mosby.
Proffit W R, Fields HW Jr, Sarver DM (4th ed.) Contemporary Treatment of Dentofacial Deformity, Mosby, St. Louis.

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

講義後の参考資料を検索、熟読し、臨床と基礎学との関わりについて理解を深める。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 不正咬合とその病因を理解し、顎顔面の成長発育、口腔機能との関わりを説明できる。
- ② 歯科矯正臨床に関わる基礎として、解剖学、口腔生理学、材料学を修得する。
- ③ 矯正力、顎整形力を理解し、歯周組織および顎顔面頭蓋のバイオメカニクスを説明できる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
0%	0%	50%	0%	0%	50%	0%

評価の要点

- ・ レポートは、高度先進矯正学の各講義内容をまとめる。5%×8回=40%
総合レポートとして、全体をまとめ臨床との関わりを展望する。10%×1回=10%
- ・ 口頭試問は、レポート提出後に行い知識の理解度を判定する。5%×8回=40%
最終口頭試問として、全体をまとめ臨床との関わりを展望する。10%×1回=10%

理想的な達成レベルの目安

高度先進矯正学入門の理想的な達成レベルは70%以上とする。